

日々初心

市長コラム・日々初心

市長●穂積 志

今年の桜

桜に対して特別な思いがあるのでしょうか、市長就任時、この欄で次のように書きました。

「市民一人ひとりが、来年の春も、またその次の春も、しあわせに桜を眺めることができるように市政運営に努めてまいります。私の得た天命と考えています」。

今年の桜はみなさんの目にどのようなに映っていたのでしょうか。中には、東日本大震災で被災した

かたや親戚知人が犠牲になつてしまったかた、あるいは甚大な被害に見舞われた現地で救援活動にあたつていようかたもいらつしやるでしょう。また、秋田に避難してきた被災者の皆さまのお世話をしている人も……。さまざまなかたの目に映つた今年の桜はいつものとは違つていたのかもしれない。

定められたサイクルに従つて咲く美しい桜も自然の力。春のきらめく季節感とともに豊かさと安らぎをもたらししてくれるのも自然の力です。そして、大地を震わし、その原形を一変させる地震の揺れも、一瞬にして船も工場も港も田畑も街までも飲み込んでしまう津

波もまた、自然の力のなせるわざなのです。

この大自然の脅威を前に人間の無力さだけが強調されがちですが、自然の営みの中で人間は自然と共生しながら食糧を生産し、美を発見し愛で、喜びを感じてきました。不撓不屈の精神と努力、人と人との絆で幾多の困難を乗り越えてきたのは私たち日本人ではなかつたのでしょうか。

幸いにして、復興に向けた足音もかすかながら聞こえてきました。強く美しい日本人を称える海外からの報道も伝わってきています。避難所や店先で、皆が凍えながら整然と並び、食料や毛布、医薬品を求める姿。プライバシーは保たれず、極めて劣悪な環境にあつても、いらだちや怒りを抑え黙々と生活する人たち。高齢者や幼い子どもなど弱者に対する温かなまなざし。警察や消防、自衛隊、医療関係者の驚嘆すべきプロ意識と勇気、そして実行力。日本全国各地から湧き起こってきた救援隊や多くのボランティアの善意……。すべてが日本人の行儀の良さや



気仙沼市の避難所で配膳を手伝う秋田市職員。市では、消防や保健、水道部門などの市職員を気仙沼市、多賀城市、南三陸町などへ派遣し、被災地を支援しています。

精神性の豊かさ、知的・技術的水準の高さに対する驚きと賛辞です。こういった言葉は、国民全体のやる気を引き出し奮い立たせてくれます。

何かとうつむき加減で縮こまりがちになります。時に気の遠くなるような困難な道のりであっても、今このときも本当に困っている被災された皆さまに思いを致し、なすべきことを一つ一つ具体的に解決していくべきと考えています。

今こそ日本人の底力と東北人の粘り強さを発揮するとき。いつの日か、心穏やかに桜を眺めるためにも。



東日本大震災により秋田市へ避難して来られたかたに食べてほしいと、4月13日、JAグループから支援米約1,500*が提供されました。ありがとうございました(引き渡して来庁したJA新あきたのみなさんと)。

◆秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。

「市長ほっとコーナー」<http://www.city.akita.akita.jp/city/mayor/>

絆きずなの エピソードや 手紙を募集

家族・地域の絆
キャラクター
「テツテ」



君の体験が
漫画になるよ!

家族や地域の「絆」にまつわる体験談や、子から親、親から子へ、ふだん言葉では伝えられない感謝の手紙などを募集します。応募作品から選考のうえ、土岐出身の漫画家・倉田よしみさん(代表作「味いちもんめ」)が簡単な漫画を制作します。できあがった作品は10月以降の広報あきたに掲載します。また、応募してくれたかたには「テツテ」ぬいぐるみをプレゼント!(応募多数の場合は抽選)。

応募方法

封書または、はがき、ファクス、Eメールに作品(400〜800字程度)と、住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、5月31日(火)まで、〒010-8560 秋田市役所市民協働・地域分権推進課
☎(866)2785

ファクス(866)2129
Eメール

ro-copr@city.akita.akita.jp

こんな体験談をお寄せください

- 家族との生活や地域の出来事で絆を感じたこと
- 学校の同級生や先生との交流で絆を感じたこと など



昨年の広報あきた10月15日号に、佐藤未羽さん(旭南小)のエピソード「友だちっていいな、大好きだよ」を掲載しました。

5月12日は民生委員・児童委員の日

何でも気軽に相談を

私たちが住む地域には、必ず担当の民生委員・児童委員のかたがいます。民生委員・児童委員のみなさんは、地域に住んでいる誰もが安心して暮らせるよう、さまざまな活動をしています。

問い合わせ

福祉総務課地域福祉推進室

☎(866)2090・ファクス(866)2417



各地で開催している「親子のつどい」。民生委員・児童委員は、子育て世代の頼れる相談役です(河辺地区の"河辺なかよし広場")。

みなさんの幸せのため 頑張っています



としお
佐々木紀男さん(下北手)
秋田市民生児童委員協議会で、PR活動を担当する広報情報部会長を務めています。

「私たち民生委員・児童委員は、市内に713人いて(内76人は児童福祉を専門に担当する主任児童委員)、それぞれが担当地域を持って活動しています。民生委員は、地域の子どもたちが安心して元気に暮らせるよう活動する児童委員を兼ねることが児童福祉法で定められています。だから「民生委員・児童委員」、または「民生児童委員」と呼ばれるんですよ。具体的な活動として、ひとり暮らし高齢者のお宅を訪問する「見守り活動」や、親子の遊び場を提供したり親御さんの悩みに応じたりする「子育て支援活動」があります。

また、困ったことがあったら何でもお気軽にご相談ください。ひとり暮らしなので災害が起きたとき不安だ、という悩みでも結構です。みなさんと行政とのパイプ役になって悩みが解決するように頑張ります。自分の地域の民生委員が分からないときは市役所の地域福祉推進室へお問い合わせください」

Look!

民生委員・児童委員が、グッズやチラシを配布しながら活動をPRします。5月12日(木)午前11時~正午、秋田駅ぼぼろ一どで。